

# 資料 1 第 2 期伊勢市環境基本計画に基づく取組の実施状況

## 1 地球環境に配慮し、資源やエネルギーを大切にす、循環型社会のまち

(総括)

- 再生可能エネルギーの導入や次世代自動車の普及を継続して推進しており、今後も新たな国の方針や社会動向を踏まえつつ、再生可能エネルギーや次世代自動車の更なる導入による低炭素社会づくりを推進する必要がある。
- より CO<sub>2</sub>排出量の少ない公共交通機関利用へのシフトの意識や関心が高まっているため、地域公共交通事業の充実と公共交通機関への利用促進を図る必要がある。
- 低炭素社会をめざし、省エネ機器等への更新・導入を継続して実施する必要がある。
- 燃えるごみの量の目標が達成できなかったことから、ごみの減量・資源化に関する事業を強化し、市民・事業者の意識の更なる向上を図る必要がある。
- さらなるごみの減量に向けて、食品ロスの削減に関する施策や雑がみの分別の定着化・習慣化を促進させるための事業を継続して実施していく必要がある。

(主要な取組)

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
再生可能エネルギーの導入促進	・太陽光発電設置への補助	環境課	計画期間で 515 件の補助を行い、制度開始以降、累積で 2,250 件の補助となり、太陽光発電の普及につなげた。	固定価格買取制度等の国の方針の変化、また、新築住宅における標準化の傾向等を踏まえ、令和元年度で補助事業を終了。
	・学校への太陽光発電の設置	学校統合推進室	令和 3 年 4 月に開校する神社・大湊統合校に太陽光発電設備を設置予定。	事業を継続する。
次世代自動車の普及促進	・コミュニティバス、自主運行バス運行事業 ・観光交通対策	交通政策課	令和元年度、おかげバス(デマンド)の利用者数が運行開始以降、最も多い利用者数となり、公共交通の利用促進に一定の成果があったと評価。また、交通渋滞対策(パークアンドバスライド等)を実施し、自動車乗車時間の減少を図り、CO <sub>2</sub> 削減に寄与した。	交通不便地域の解消及び市内移動利便性の向上のため、引き続きコミュニティバス運行を継続する。また、交通渋滞対策(パークアンドバスライド等)を実施し CO <sub>2</sub> 削減を図る。
	・電気自動車等の普及促進	環境課	市役所の公用車への電気自動車の導入、イベントでの PR など、普及促進を図った。	次世代自動車の普及は過渡期にあり、引き続き積極的な周知を行う。

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
省エネルギーの推進	・防犯灯の LED 化推進	危機管理課	夜間の犯罪防止のために自治会が設置し維持管理している防犯灯の LED 化を推進してきた。令和元年度までに取替を完了した自治会は 85.4%となり、一定の効果を示している。	令和 2 年度から申請方法を変更し、進捗率向上に努めている。
	・道路照明の LED 化	維持課	道路照明等の LED 化を行い、省エネルギー化、長寿命化を図った。	今後も、順次取替を行っていく。
	・公共施設の LED 化	資産経営課 学校統合推進室	市役所本庁舎の照明すべてを LED 化した。また、神社・大湊統合校に LED を導入予定。	統合校の LED 化は事業を継続する。
廃棄物の発生抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座開催</li> <li>・レジ袋有料化、マイバッグの持参促進</li> <li>・生ごみ処理機の購入助成</li> <li>・食品ロス削減の啓発</li> </ul>	清掃課	レジ袋有料化に先進的に取り組み、レジ袋辞退率は 90%以上を維持しており、一定の成果を果たした。今後、食品ロスの削減などの新しい取り組みに重点を置く。	「減らそに！いせの食品ロス協議会」を中心に、食品ロスの削減に取り組むとともに、生ごみ処理機の助成について補助内容を見直していく。
廃棄物の再使用・再生利用の推進"	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃品回収に対する奨励金交付</li> <li>・資源物の分別徹底の啓発</li> </ul>	清掃課	燃えるごみに含まれている資源物（特に雑がみ）の分別徹底について、さらなる資源化をめざし、禁忌品についても資源化を行う取り組みを開始した。	「雑がみ」の資源化定着と、「禁忌品」の資源化を普及していく。

## 2 豊かな自然を守り、水と緑と人が共生する魅力あるまち

(総括)

- 有識者・企業・住民組織等、多様な主体と連携し、生物多様性保全を推進する必要がある。
- 池干しによる外来生物の除去等、生物多様性の保全に向けた取組を継続して実施している一方で、生物多様性への理解・認識は高いとは言えないため、生物多様性に関する認知度向上に向けた取組が必要である。
- 汚水処理人口は増加を続けており、浄化槽の設置や下水道整備の推進により、着実に施策や取組が進んでいる。引き続き、水質汚濁の防止・改善、および良好な生活環境の確保を目的とした取組を進める必要がある。
- 勢田川七夕大そうじや自然とふれあえる野外環境学習等、自然とふれあう機会や環境の整備が図られている。今後も引き続きこれらの取組を推進し、より効果的に推進するための自然体験や自然保護に関する取組みの検討を図る必要がある。
- 森林の有する保全林・環境林の持つ機能の向上を継続して図る必要がある。
- 多面的機能支払活動組織数については、目標達成ができなかったことから、更なる活動組織の増加を図る必要がある。

(主要な取組)

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
生物多様性の保全	・環境保全型ブロックの使用	基盤整備課	河川の護岸ブロックに環境保全型を使用し、植生の早期復元を図った。	今後も環境保全型を使用する。
	・生物多様性保全活動	環境課	企業や住民組織の生物多様性活動に参加し生息状況等の調査を実施した。また、池干しを行い外来生物の駆除を実施した。	今後も継続して取り組み、生息状況の把握と保全、外来生物の駆除を行う。
水環境の保全	・宮川流域の水質チェック	企画調整課	水質汚濁の防止・改善、および良好な生活環境の確保を目的とした取り組みとして継続的に実施し、一定の成果を得ている。	宮川流域ルネッサンス協議会事務局の事業方針に基づき、内容を調整し、実施する。
	・河川・海域における水質調査	環境課	河川・海域の水質の現状把握を行い、生活排水対策立案の資料とした。	引き続き、水質の把握を行い、生活排水対策を進める。
	・下水道の整備、普及率の向上	下水道建設課	概ね計画どおりに下水道普及率が向上し、目標の効果を得た。	第5期の下水道整備区域内の完成に向けて整備を継続する。
	・合併処理浄化槽の設置補助	環境課	計画期間で1,338基の補助を行い、生活排水処理人口の向上につなげた。	引き続き、下水道事業との両輪で生活排水処理対策を進める。単独処理浄化槽からの転換を進める。

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
水環境の 保全	・エコ・クッキングの開催	環境課	環境に配慮した食生活の大切さを学ぶことを目的に、エコ・クッキングを開催し、延べ146人が参加した。	身近にできる生活排水対策として、引き続き、東邦ガス(株)と連携して実施する。
自然との ふれあいの 増進	・宮川流域の環境 保全活動	企画調 整課	宮川流域で活動する住民・団体等への活動支援や、清掃・植樹等の環境保全活動を行い、一定の成果を得た。	宮川流域ルネッサンス協議会事務局の事業方針に基づき、内容を調整し、実施する。
	・勢田川七夕大そ うじ ・水生生物による 水質調査等の野 外環境学習	環境課	毎年7月に勢田川七夕大そうじを実施し、環境保全意識の高揚につなげた。また、小学生を対象に野外環境学習を開催し、環境意識を高めた。	引き続き実施する。
森林環境 の保全	・森林の適正管理	農林水 産課	間伐による森林適正管理を行い、一定の成果を得た。	今後も継続した管理を行い、森林保全に取り組む。
農地環境 の保全	・農村環境活動等 への支援	農林水 産課	農村環境活動等を行う活動組織に対し支援を行い、一定の成果を得た。増え続けてきた組織数が令和元年度に減少し、今後、組織数増加に向けた取り組みが必要となる。	組織数の増加を図りながら、継続した取り組みを行っていく。

### 3 歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち

(総括)

- 空家対策やバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進等を継続して実施しており、都市・快適環境の向上に努めている。人口減少や少子高齢化の問題に適正に対応するために引き続き取組を進める必要がある。
- 伊勢市空家等対策計画に基づき、空家に関する啓発や指導を推進しており、空家等の除却・管理済件数は増加している。市内の空家は、人口減少や少子高齢化に伴い、今後も増加することが見込まれるため、更なる空家等対策の推進を図る必要がある。
- 公害関係法令に基づき、公害対策を継続して実施し快適な住環境を実現していく。
- 歴史的・文化的環境の保全について、今後も、伊勢の環境文化の発信や良好な景観形成の推進を継続する必要がある。

(主要な取組)

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
住環境の 向上	・空家対策	住宅政策課	伊勢市空家等対策計画を策定し、計画的・総合的に空き家対策に取り組むことで、着実に住環境の向上につなげることができた。	空家件数は今後も増加が予想されることから、実態調査により現況を把握するとともに、引き続き、空家所有者等の管理意識の向上につながるよう普及啓発に努める。
	・騒音・振動・悪臭の調査	環境課	環境騒音、自動車騒音・振動の環境基準の達成状況の把握を行い、概ね達成していた。	安心・安全で快適な住環境の実現に向けて引き続き実施する。
バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	・バリアフリー観光の実施	観光振興課	バリアフリー観光の情報発信や地元団体・大学等と連携した人材育成により、伊勢おもてなしヘルパーのサービス利用者・提供者の拡充につながった。	バリアフリーマップのリニューアルや伊勢おもてなしヘルパーのサービス内容拡充など、バリアフリー観光の取り組みを一層進めていく。
	・公園、公共施設、駅のバリアフリー化	基盤整備課 資産経営課 都市計画課	公園施設、市役所本庁舎のユニバーサルデザイン及びバリアフリー化を進めた。また、五十鈴川駅のバリアフリー化に補助金を交付して進めた。	今後もユニバーサルデザイン及びバリアフリー化を意識した施設整備を行っていく。

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
美しく潤いのある空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいなまちづくりの推進</li> <li>・ごみゼロ清掃</li> <li>・路上喫煙対策</li> </ul>	清掃課	「伊勢市を美しくする条例」を、たばこの吸い殻のポイ捨てだけでなく、たばこの火による火傷の防止も加えた「伊勢市ポイ捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」に改正した。	路上喫煙の防止に関しても、「禁止区域」の追加や変更など、審議会で議論していく。必要に応じ、禁止区域掲示看板や喫煙所の整備などを行う。
良好な景観の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観計画に基づく指導</li> <li>・重点地区景観形成基準に適合した事業への補助</li> </ul>	都市計画課	伊勢市景観計画における重点地区で交付要綱に適合した事業に対する補助金の交付や、景観コンクールの実施による景観形成の意識啓発により、良好な景観形成の推進を図った。	令和2年度以降も事業を実施。二見町茶屋地区において、重点地区景観形成基準の見直しを検討していく。

#### 4 協働でつくる、人と環境にやさしいまち

(総括)

- 子どもから大人までのあらゆる年齢層が学べる環境教育を展開するとともに、講座内容の質的向上、提供企業等の新規開拓等により更なる充実を図る必要がある。
- 今後も、環境教育等の推進のために、地域や企業・関係機関等と連携できる体制づくりを進めていくことが必要である。
- 市民のための環境学習の機会や場の提供、学校における環境教育への支援などを引き続き実施するとともに、地域企業や関係機関等と連携の強化や講座内容の質的向上する必要がある。

(主要な取組)

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
ESDに基づく環境教育・学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校による学校環境デー(6月5日)の取り組み</li> <li>・環境教育、環境保全の取組</li> </ul>	学校教育課	<p>企業・地域・家庭との連携や学校環境デーの実施率は100%を達成しており、環境学習の取り組みは広げることができた。資源回収やさまざまな教育活動を通して、環境について繰り返し考える機会を持つことができた。児童生徒の環境保全意識は定着してきており、環境を改善しようとする実践力を高めることにつながった。</p>	継続実施。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MOTTAINAI推進ポスター</li> <li>・小学校で出前授業を実施</li> </ul>	清掃課	<p>出前授業などを通じて、環境会議活動のサポートを行った。</p>	<p>雑がみ「禁忌品」のトイレトペーパー化事業を、環境会議主催の取組として、環境会議のPRや新規会員増などの効果を図っていく。</p>
環境教育等を推進する体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域企業・環境会議の出前講座等</li> <li>・太陽光発電の学習、河川等の環境保全活動など</li> </ul>	学校教育課	<p>出前講座活用の取り組みは広がった。</p>	継続実施。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・大学と連携した出前講座</li> </ul>	環境課	<p>企業・大学と連携して小学校での出前授業を実施し、将来を担う子どもたちの環境意識の高揚を図った。</p>	<p>新たな連携先を創出して企画の充実を図り、積極的に出前講座を実施する。</p>

施策名	取組内容	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
市民・事業者・行政の連携・協働	・環境会議による啓発活動	清掃課 環境課	出前授業など、伊勢市環境会議と連携し、環境啓発に係るさまざまな事業を実施し、市民意識の高揚を図った。	伊勢市環境会議のPRや新規会員増などの効果を図り、啓発活動を行っていく。
	・環境フェアの開催	環境課	毎年10月に環境フェアを開催し、市民の環境意識の高揚を図った。	引き続き実施し、市民啓発を行う。企画の充実を図っていく。

### ◎重点事業における目標指標の達成状況

目標指標	実績値					目標値
	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和元 (2019) 年度
太陽光発電設置件数 (中部電力(株)との太陽光発電の受給契約件数)	3,580 件	3,885 件	4,121 件	4,405 件	4,619 件	6,500 件
燃えるごみの量	43,159t/年	42,948t/年	42,603t/年	41,918t/年	41,506t/年	34,000t/年
汚水処理人口	91,624 人	93,128 人	94,451 人	96,758 人	97,631 人	94,000 人
多面的機能支払活動組織数	26 組織	26 組織	27 組織	28 組織	26 組織	33 組織